

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学



記念植樹

開学記念式典

常陸宮妃華子さまも開学祝う



近衛理事長挨拶

今年4月に開学した本大学の開学記念式典は、去る7月23日、本大学講堂で行われました。

式典には、日本赤十字社名誉副総裁常陸宮妃華子さまもご臨席し、日本赤十字社及び大学関係者、学生、来賓など約330人が出席しました。

最初に、近衛忠輝日本赤十字学園理事長は式辞で『赤十字の原則を踏まえ、科学的、理論的分析能力等の育成……、救護はもとより、保健・医療・福祉の全ての面において通用する高度な看護技術の修得に力を入れていきたい』と述べられました。次に松木光子学長があいさつで『将来、看護の分野で指導的役割を担える人材を育成していく』また、今後の大学の



開学式典

役割として『学生の教育にとどまらず、生涯教育的な機能を持たせていきたい』と考えを示されました。続いて、北海道知事、北見日本赤十字社北海道支部長、北海道看護協会長の皆様から祝辞を賜りました。

このあと建設経過が報告され、大学建設に携わった建築関係事業

所に対して、近衛理事長より感謝状を贈呈しました。

式典の後、華子さまが、大学内をご視察された後、大学前庭にて記念植樹に参加し、イチイの木にくわ入れをされました。

植樹後、松木学長が『大学課程としての看護教育』の演題で記念講演を行い、会場を学生ホールに移して記念祝賀会を開き開学を祝いました。



華子さまに握手を求める学生

この四月に、地域の方々の熱い思いとご支援によって誕生した日本赤十字北海道看護大学の美しいキャンパスに皆さんを迎えて早半年、学生生活もようやく軌道に乗りにかけたこの時期に改めて入学のお祝いを申し上げます。

わが国の北辺の寒冷地にある北海道は、幾多の困難を克服して今日の繁栄を築いてきました。その先人たちの努力を思い、そして本校が看護大学としては日本列島の最東端に位置していることを考える時、第一期生である皆さんには、パイオニアとして後輩のために新しい道を切り開いて行くチャレンジと共に、大きな使命が与えられていることを自覚していただきたいと思います。

赤十字は『人道』を標榜しています。その最大の敵は、利己心、他人の痛みや苦しみに対する無関心、無理解、創造力の欠如であり、『人道』が強制できるものではない以上、活動にはいつもボランティアの精神が求められます。世界176カ国ある赤十字ないし赤新月社は、それぞれに救援、保健、医療、福祉、血液事業等に深く関わっており、本大学では、これらいずれの活動の中でも通用する高度な看護技術の修得に力を入れていくと共に、災害・紛争の犠牲者、患者、社会的弱者に対する人道的関心を自ら高め、その環境を分析し、的確な判断を下せる人材の育成を心掛けたいと願っています。

看護が、『人間の学』であると同時に『実践の科学』であるならば、それを学び実践する人々の体験が共有されてこそ、お互いの切磋琢磨と資質の向上に結びつくものと信じています。『大学広報誌』は、そのための内にも外にも開かれた窓口であり、この創刊号がその力強い第一歩となることを期待して止みません。



理事長
近衛 忠輝

早いもので、皆さんが入学してから半年が過ぎました。そろそろ大学での生活にも慣れてきたことと思います。看護大学は、看護実習の期間が長いため、どうしても通常のカリキュラムは過密となります。しかし、将来は人命に関わる仕事に就くわけですから、若いうちに大いに苦勞してもらいたいと思います。

7月には、常陸宮妃殿下をはじめとする多くの来賓の方々をお迎えして開学式典を執り行いました。皆さんのお手伝いもあって、無事式典を終えることが出来たことを教職員一同大いに感謝しています。

妃殿下自らがお手を添えられ植樹されたイチイの木は、オンコあるいはアララギとも呼ばれ、良く風雪に耐え、やがては10m以上の高木となる常緑樹です。この木とともに皆さんが大きく成長され、本学に新たな伝統を築かれることを期待しています。



学長
松木 光子

入学式

日本赤十字北海道看護大学は、道内初の看護系単科大学として今年4月北見市に開学し、4月7日第1期生108人（女子96名、男子12名）の新生を迎え、本学講堂にて入学式をとり行いました。

入学式場となりました講堂では、新生と父母約250人が集まり、入学生全員の名前が紹介された後、松木学長より「入学の目標を見失わず、物事をみる・やる基礎づくりをし、北の大地でのびやかに成長していただきたい。」との式辞がありました。ひきつづき、日

本赤十字学園の近衛忠輝理事長の挨拶、北海道知事、北見市長、北見工業大学学長の御祝辞があり、さらに新生を代表して相原佐知子さんが新生の誓いのことばを述べて、入学式を終了いたしました。

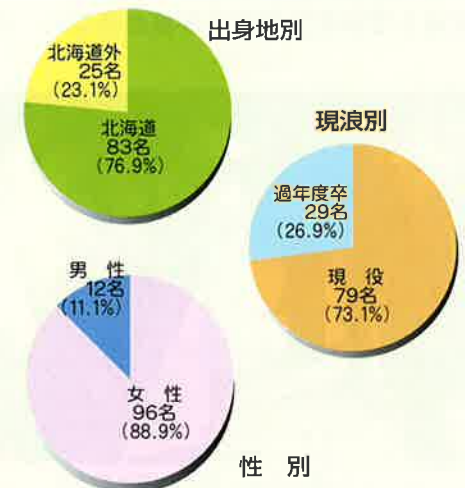


平成11年度入試概況

	募集人数	志願者数	倍率	入学者数
推薦入学	30名	58名	1.9倍	30名
一般入試	70名	344名	4.9倍	78名
計	100名	402名	4.0倍	108名

■入学者(出身高校) 都道府県別内訳
北海道(83人)・東京都(6人)・神奈川県(5人)・兵庫県(2人)・岩手県(1人)・秋田県(1人)・福島県(1人)・埼玉県(1人)・千葉県(1人)・富山県(1人)・静岡県(1人)・愛知県(1人)・大阪府(1人)・和歌山県(1人)・岡山県(1人)・愛媛県(1人)

■入学者(出身高校) 北海道地域別内訳
網走地域(22人)・石狩地域(17人)・上川地域(11人)・釧路地域(9人)・十勝地域(8人)・渡島地域(5人)・南空知地域(3人)・胆振地域(2人)・日高地域(2人)・留萌地域(2人)・後志地域(1人)・根室地域(1人)



クラブ設立

わが大学にも、11のクラブ、1つの同好会、申請中の4つのグループが活動を始めています。それぞれの規則や活動計画もできあがり軌道に乗り始めました。今後は、活動に必要な用具や物品をそろえていかなければなりません。



剣道部

◆クラブの紹介

- 1 バドミントン部
- 2 硬式テニスサークル
- 3 写真部
- 4 ボランティアサークル・ペーパーミント
- 5 弓道部
- 6 International Language Club
- 7 剣道部
- 8 バスケットボール部
- 9 音楽部
- 10 茶道部
- 11 ソフトボール部



写真部

◆同好会の紹介

美術同好会

◆申請中

- 1 翻訳クラブ
- 2 英検・TOEFL・TOEIC 研究クラブ
- 3 健康・管理研究会
- 4 男子硬式庭球同好会

学生生活全般に主体的な取り組みを！

学務部長 影山セツ子

炎暑と言うにふさわしかった夏も過ぎ、学年暦もいよいよ後半期に入りました。親元を離れての初めての生活、“看護”という共通の志を持つ仲間や様々な学問との出会い等、この半年間の生活は、一人ひとりの心にどのような足跡を残してくれたのでしょうか。4年間の学生生活を有意義なものにするために

は、学業と課外活動のバランスを保つことが大切です。来春入学してくる、後輩に対してこの1年間の体験を存分に伝えることのできる様、日々の学習活動や課外活動に主体的に取り組み、青春を謳歌して下さい。

Viva Kango の名にふさわしいキャンパスライフを共に築いていきましょう。

総交流会

5月14日(金)午後6時から、学生食堂の花壇の横で、学生主催の「教職員と学生の総交流会」が、非常勤の先生方も含め、盛大に行われました。

この日は、会の直前まで台風並の風が吹いていましたが、会が始まる頃には風もぴたっと止み、将来の本学の前途を祝福してくれたようでした。



準備に大わらわだった、学年委員の上谷君、中村君、横山さんもほっとしたようで、カルビ、さがり、タン、ホルモン、野菜、焼きそば、が足りなくなり買い足しに奔走したそうです。お腹いっぱいになるまで食べた後はグラウンドに移動して花火を楽しみ、皆上機嫌で、歓声が上がりました。来年の総交流会の構想をねって

る人もいたそうです。後輩が入学してくるのが待ち遠しいと思わせる交流会でした。

ディベート大会

5月24日(月)、本学講堂で、「脳死と臓器移植の是非を問う」と題して、ディベート大会が催されました。医療科学概論の科目の中で行われたものです。準備にかけられる時間が十分とれないなかで、賛成派、反対派の両者とも、事前学習の成果を発揮し、白熱した議論を展開しました。

それぞれの役割分担に積極的に取り組み、特に写真部などの部員の数名が夏休みまでかかり、ビデオの編集や記録集を仕上げました。

ディベーターを体験した学生は、こういう学習を通して、より積極的に講義に参加できたと言っていました。



事務局から

オープンキャンパス

8月1日（第1回）および9月19日（第2回）の2度にわたり、本学の平成11年度オープンキャンパスが開催されました。

第1回には高校3年生47名を中心として88名が、第2回には高校3年生69名を含め132名が参加されました。

両日とも、松木学長の歓迎挨拶の後、影山学務部長から本学の教育理念と特色を、齋藤入試委員長より平成12年度学生募集要項の概要について説明が行われました。続いて、小グループに別れて、基礎・成人看護実習室をはじめとする看護実習室および情報処理教室、LL教室、図書館、体育館、食堂等を見学しました。

最後の個別質問コーナーにおいては、来年度の入試に関して受験生からたくさんの熱心な質問が寄

せられました。受験生の本学へのあこがれの表情が印象的でした。



アルバイトについて

本学では、入学後、学業に専念してもらおう観点から、夏季休業までの期間についてアルバイトを原則として禁止してきました。

後期以降は、学生生活を続ける上でどうしても必要な場合は、学業に支障をきたさない範囲でアルバイトを選んで下さい。特に危険を伴ったり、風紀上好ましくない職種、就業時間が深夜に及ぶ職種への就業は避けるよう十分注意し、大学生としてふさわしい仕事を選ぶようにしてください。

大学にアルバイトの募集があっ

た場合は、その都度、掲示板に案内します。

悪徳商法について

最近、若者をターゲットにしたアポイントメントセールス、キャッチセールス、マルチ・マルチまがい商法やインターネット関係等の悪質商法が増えており、トラブルに巻き込まれる大学生が増えています。また、クレジットカードを利用しすぎてしまい支払い不能になるケースも少なくありません。

多様化する販売方法等の利用にあたって、必要な法的知識や悪質な消費者取り引きに巻き込まれない為の知識を身につけることが肝心です。例えば、クーリング・オフ制度（契約解除）を知っておくと良いでしょう。悪質商法に関する相談、クーリング・オフ制度についての詳しい内容は下記へお問い合わせください。

北見消費者協会 電話 23-4013

後期行事予定

- 10月1日 後期授業開始
- 10月30日 第10回オホーツク大学間公開交流セミナー
- 11月6日 大学祭（～11月7日）
- 11月21日 推薦入学試験
- 11月27日 推薦入試合格者発表
- 12月24日 冬期休業
（～平成12年1月14日）
- 2月5日 一般入学試験
- 2月7日 後期定期試験（～2月18日）
- 2月14日 一般入試合格者発表
- 2月21日 基礎看護学実習Ⅰ
（～3月3日）
- 3月13日 春季休業（～3月31日）

奨学金貸与状況

平成11年9月3日現在、各種奨学金団体等からの奨学金の貸与決定状況について、下記のとおり73名の学生が奨学生として採用されています。

名 称	貸与金額	人 数	
日本赤十字社北海道支部奨学金	年額120万円	22名	
総合病院北見赤十字病院修学資金	年額 60万円	15名	
日本赤十字社看護婦同方会奨学金	月額 2万円	1名	
北海道看護協会奨学金	月額 2万円	2名	
女満別町教育委員会奨学金	月額2.5万円	1名	
日本育英会奨学金	第1種（無利子） 自宅通学者	月額 5万円 3名	
	自宅外通学者	月額 6万円 6名	
	きぼう21プラン（有利子）	月額 3万円	3名
		月額 5万円	10名
		月額 8万円	5名
月額 10万円		5名	

編集後記

学内広報誌『+ Viva Kango』創刊号をお届けします。誌名のViva（ビバ！）とは万歳とか歓声の意味です。+とKangoは説明するまでもありません。素晴らしい看護大になりますようにとの願いを込めて教授会で決めました。次号は2月に発行する予定です。年2回の発行では少々古いニュースしか載せられませんが、保存しておく皆さんの学生時代の良い記録にもなると思います。創刊号には、皆さんに早く顔を覚えていただくよう教職員の名簿を加えました。感想あるいは投稿をお寄せください。

日本赤十字北海道看護大学学内誌
No.1

+ Viva Kango

発行日/1999年10月15日
編集・発行/広報委員会
〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp